

学校法人石田学園

2023年度 事業計画書

広島経済大学は、1967（昭和 42）年、歴史ある武田山の麓に開学しました。大学の経営母体である石田学園創立の理念は「和を以て貴しと為す」、大学開学の理想は「大学の道は明德を明らかにするに在り」であり、こうした理念理想のもと、教育の拡充を図ってきました。経済学部、経営学部、メディアビジネス学部の 3 学部を備える社会科学系の総合大学として、次代を担う人材である「ゼロから立ち上げる」興動人、すなわち既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を持ち、仲間と協働して何かを成し遂げる力を備えた人材の育成を目指しています。



さて、少子化に伴い、大学志願者数が緩やかに減少する一方、大学・学部の新増設等による定員増で、大学を取り巻く環境は一層厳しくなっています。こうした中、地方の私立大学が存在し続けるためには、大学の価値を高め、かつ、それを学外に示さねばなりません。大学の価値は、研究と教育です。本学では特に教育を重視し、次代を担う学生を育成して国家社会へ貢献することに力を注いでいます。時代にふさわしい、より良い教育を目指して改革を続けることはもとより、私たちの教育活動を、広く社会へ、正しく広報いたします。

広島経済大学では、学生が仲間とともに切磋琢磨して今を生き抜くゆるぎない力を身につけることを願い、多様な学びと経験の機会を提供するよう、努力を続けてまいります。2023 年度は、コロナを越えて、再び社会が動き出します。これまでの我慢の日々を乗り越え、広い世界へ向かって扉を開けていこうとする学生を、教職員一同、しっかり支援してまいります。今後とも、私たちの取り組みに対し、あたたかなご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

学長 石田 優子

建学の精神「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治 40 年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「和を以て貴しと為す」としました。

立学の方針「大学の道は明德を明らかにするに在り」

本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、明德（本来持っている曇りのない本性）を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを教育の理念としています。

教職員の行動指針「Be Student-oriented（すべては学生のために）」

アクティブな学びを発信し、輝く広経大ブランドを確立

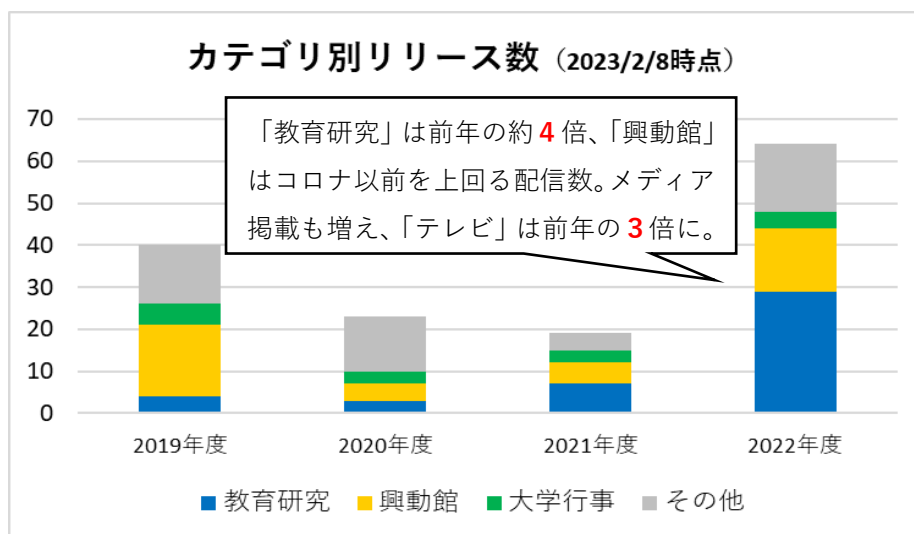
**高校生に選ばれ、在学生在が満足し、
卒業生が誇りに思い、社会から信頼される一**

そうした大学であるために、日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

1. 大学広報改革の継続

本学では2006年、育成すべき人材像を「ゼロから立ち上げる」興動人と定め、教育プログラムを強化してきました。「“興動人”こそ、不確実な時代を生き抜き、社会を支える」というのが教職員共通の理解であり、興動館で展開するプログラムはもちろん、授業やゼミナールにおいても、本学らしいアクティブな教育方法を試み、学外から高く評価されています。

しかしながら、学外への情報発信はまだ十分にではない、という課題がありました。そこで、2022年を広報改革元年として「大学広報」戦略を刷新、(1)広報体制の強化、(2)学びに関する広報の強化、(3)ステークホルダーとの関係強化の3点を目指しています。



(2)の学びに関する広報の強化については、2022年度1月時点においてすでに、昨年度を大きく上回る数の「教育研究」に関するプレスリリース等を行いました。テレビや新聞などのメディアへの掲載も増え、大学のステークホルダー、特に高校生に対して、大学でどういった学びができるのか発信しています。ただ、学部学科によって発信にばらつきがあるため、先行する学科のノウハウを活かし、全学部学科が適切に情報を発信するよう努めます。

(3)ステークホルダーとの関係については、広報の重要ステークホルダーとして、高校生、社会（企業）、メディアをあげ、強化に努めています。メディアに対しては、教員の取材対

応可能分野などを記した「教員プロフィールブック」を作成・公表して、取材依頼への迅速な対応に努め、教育研究の成果を提供して社会貢献を行います。高校生に対しては、オープンキャンパスや高校での模擬授業の内容をブラッシュアップするとともに、現在提供している高大連携授業について高校生のニーズをふまえて一新します。企業に対しては、共同での研究調査や勉強会を行うための良好な関係の構築を続けます。

2. “ゼミといえば広経大”、学びの面白さを発信

① 本学のゼミナールの特徴

ゼミとは「演習形式の授業で、設定したテーマについて学生の議論や発表などを中心とするもの」というのが一般的な考えです。本学のゼミには、(1)「**全学必修・4年間・少人数**」の「**手厚い体制**」と、(2)興動人教育に基づいたプレゼンテーション能力育成という明確な目標ゆえに「**学生自ら能動的・積極的に学ぶ、アクティブな活動**」が多く展開されるという、2つの特徴があります。大学としてもこうした活動を推進しており、教室を出てユニークな活動をするゼミには、ゼミ支援金を用意します。また、**学生が考えたアイデアを自ら実現する機会として興動館プロジェクト制度があることも、ユニークな魅力**といえます。

本学のアクティブなゼミは、高校で取り入れられる探求型学習の発展型ともいえます。今後より進化させるとともに、社会や高校生に対して活動に関する発信を強化します。

② ゼミ活動に最適な環境～明德館と成風館～



(宮島島内のセミナーハウス成風館)



明德館 7階)

こうしたゼミ活動を、個性ゆたかな施設が支えます。明德館は、グループ学習に最適な、アクティブラーニングフロアを有する10階建ての建物です。また、7階のシンボリックなプレゼンテーションコートは、ゼミ発表でも頻繁に利用され、多彩な活動を支えています。

また、セミナーハウス「成風館」は、日本三景である宮島の厳島神社近くに所在する、宿泊も可能な研修施設です。**世界遺産の島での研修は、本学ならではの特別な経験**です。

コロナ禍を越えて、学生が本学ならではの特徴ある施設をしっかりと使い、学びを体験し、成長を実感する機会を提供できるよう、感染対策に努めながら支援していきます。

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

■ 教育改革の促進

■ 教養教育

『～本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う～』

- ・ 日本語教育の一層の定着と向上
- ・ 英語教育のレベル別コンテンツの展開による充実
- ・ 自己理解系科目、他者理解系科目の再点検評価による科目の新設、複数クラスの開講

■ 経済学部

『～地域社会に信頼される経済学部として、地域の企業や自治体でリーダーとして貢献しうる人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す～』

- ・ 地域社会で活躍できる学生を育成するため教育内容を充実させる。
- ・ 問題解決型の科目を配置するために地域課題型をテーマとする科目へシフト
- ・ 経済学の新しい動きを取り入れた行動経済学等の新規科目設置の検討

■ 経営学部

『～これからの時代に求められる力を備え、現実のビジネスにつなげていくことができる人材、また既存のビジネスに加えスポーツビジネスなど今後の発展が期待される分野において活躍できる人材の育成を目指す～』

- ・ 実業に結び付く教育内容の強化
- ・ 経営学と IT 知識をベースとした実践的な科目内容への見直し
- ・ スポーツビジネス界を牽引できる人材輩出への取り組み

■ メディアビジネス学部

『～コンピューターや AI、情報通信技術、各種メディアの急速な発展と進化の時代の中で、柔軟に対応でき次代の社会を牽引できる人材を育成する～』

- ・ 情報、データサイエンスに関する知識を身に付けた人材輩出
- ・ 将来の理想像を明確にしつつ、具体的なカリキュラムの構造を検討

- ・現代のビジネスや地域社会において活躍できる人材育成に向けて出口戦略を考慮した新科目の設置

■ 大学院経済学研究科

社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、新設科目の検討、授業内容の見直しを行い、研究の拠点として誇りうる大学院の創造を目指す。

■ 時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・ ICT 技術を活用した教育の推進
- ・ 学生による授業評価アンケートの見直しを図り、学生の授業満足度の向上に繋げる。
- ・ 教員の教育力向上を目指して FD 研修会の充実を図る。
- ・ IR (Institutional Research) による教育プログラムの改善支援を行う。

■ 教育施設の活用支援

■ 「知の館」としての図書館

- ・ 初年次図書館ガイダンス、3 年次文献ガイダンスの改善
- ・ デジタル資料（電子ブック・データベース）の充実
- ・ 2022 年度導入の学術情報検索のための「ディスカバリーサービス」の PR 強化

■ 「創造の館」としての明德館

- ・ 1 日 3 00 名の利用者を目指し、利用活性化に向けた事業の展開
- ・ アクティブ・ラーニングの導入提案を行う等、授業支援を通して学生の学びを応援

■ 「実践の館」としての興動館

- ・ プロジェクトや興動館科目を通じた交流拠点、プロジェクトの活動拠点、学びの場として専任スタッフと共に興動館教育プログラムを支援

■ 「情報教育の中核」としてのメディア情報センター

- ・ パソコン教室やハイビジョン機器を完備したスタジオやラジオブース等、情報教育の中核として充実した設備を利用した IT 教育を推進

■ 学習支援

■ ラーニングサポートコーナー（LSC）活動の充実

スチューデントアシスタント（SA）による英語、日本語、簿記、情報などの学習支援活動やピアサポーターの養成を通じて、学生同士の学びあいと成長を促す。

■ 成績不振学生の支援

- ・ GPA 制度を利用した成績状況の分析を通して、成績不振学生の早期発見、早期対策に取り組む。
- ・ ゼミ教員、学務センター、教育学習支援センター等の職員、部・サークル顧問、興動館プロジェクトコーディネーター等が連携し学生支援を行う。
- ・ IR 分析による中退学生の傾向を共有し、学習意欲の向上や学習支援につなげる。

■ その他

- ・ 大学入門ゼミにおけるアカデミックスキルの修得や興動人入門ゼミによる興動人育成をはじめとする、初年次教育プログラムのテキスト改定や実施内容について改善案を検討する。

■ 意欲ある学生の安定的な確保

■ 新教育課程入試への対応

- ・ 2025 年度入試からの新学習指導要領に基づく入試制度開始に伴う、入試科目の変更
- ・ 「思考力・判断力・表現力」を問う等文科省が示す方針に則った出題方法の検討及び学力レベルを正しく判定するための科目設定、合否判定方法を検討する。

■ 入試改革の継続

- ・ 18 歳人口の減少による外的要因はあるが、戦略的定員割れ作戦を踏襲していく。受験生が年内入試へシフトしている動向に合わせた新たな入試制度を導入する。

■ より学ぶ意欲の高い学生の確保を目指して

- ・ 上位層の高校に向けたアプローチの強化を図る。
- ・ 学生確保マーケティングサービスによる分析を基に新規募集強化エリアを開拓する。
- ・ 3 学部の専門性を広報し、周知することで向学心の高い入学者の確保を目指す。
- ・ 入学生に対し、教職員は Be Student-oriented で対応し、本学への満足度を高める。

社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合って意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、Society5.0 に対応し、新たな未来の創造に貢献するために研究を促進、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

■ 研究支援体制の整備

■ 研究費支援

- ・ 成果による研究費配分の見直し
- ・ インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿を後押し（昇格条件ポイント換算等）
- ・ 権威ある国際学会等での研究発表（表彰制度）
- ・ 教員の研究業績である研究双書、学術図書の出版の援助を充実すると共に、それらの審査委員会における査読機能を実質化するよう検討する。
- ・ 科学研究費助成事業に応募するための申請書作成ポイントに関する説明会の実施、その他の外部資金獲得のための支援を検討する。

■ 研究におけるコンプライアンスへの取り組み強化

- ・ コンプライアンス教育、研究倫理教育を実施し、研究不正防止体制を整備する。また教員が研究活動しやすい環境作り、研究費の適正な管理体制の整備等、サポート体制の構築を図る。

■ 研究成果を教育へ還元

- ・ 教員の研究から得られた新たな知見を授業に反映するよう、授業内容の見直しを行う。

■ SDG's の推進

- ・ 持続可能な開発目標の原則に合致した活動を継続するとともに、世界が直面している課題解決に向け、「知の拠点」として研究を開始するとともに情報を発信し、地域貢献を目指す。

人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

広島経済大学は「Be Student-oriented」、学生志向の、教育を重視する大学です。次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

■ 地域連携事業

■ 学生による地域連携事業の促進

- ・ゼミナールの一環として、行政や地域団体とコラボし、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす。
- ・興動館プロジェクトに新たな社会貢献分野の開拓を進めていく。

■ 地域企業との連携の強化

- ・企業・官庁との包括協定締結先との連携による提携事業を推進する。
- ・本学教員の研究調査実績をデータベース化し、新たな産官学連携協定先を開拓する。

■ 生涯学習機会の提供

- ・社会人向けのキャリアアップ・プログラムは、コロナ禍でも受講しやすいようにオンデマンド講座を拡充してきたが、今後も社会のニーズを捉えた運営改善を進める。
- ・リカレント教育の一環として貢献できるよう、今後も受講者数の増加を目指す。

■ スポーツを通じた地域活性化への取り組み

- ・2022年度は、タイ王国より、スポーツ庁名誉顧問のポンパヌ・サウエイタルン氏を招き、第9回国際スポーツサロンを開催した。
- ・トップス広島と興動館プロジェクトとのコラボや、FLPカップの開催等を通じて本学のスポーツ施設を利用した地域活性化につながるようなイベントを実施する。

■ 機関リポジトリによる教育研究成果の発信

- ・広島県共同リポジトリから国立情報学研究所のJAIRO Cloudに移行したリポジトリを適切に運用し、オープンアクセス化に貢献する。

世界へはばたく、真のグローバルISTを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が大学時代に世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えていきます。

■ 国際交流事業支援

■ 世界で活動する学生プロジェクト支援

- ・ 興動館プロジェクト：インドネシア国際貢献プロジェクト、カンボジア国際交流プロジェクト、広島ハワイ文化交流プロジェクトなどの助成を続けるとともに、新規海外系プロジェクト立ち上げの支援を行う。

■ 海外の関係校との連携の強化

- ・ 姉妹校(6 大学)、協定校(14 大学)、NIBES 加盟校(20 大学)との関係を強化する。
- ・ タイ王国のスィーパトゥム大学と Panyapiwat Institute of Management との国際交流協定の交渉を進める。

■ 留学生支援の拡充と受け入れの強化

- ・ 2023 年度前期は、22 名の交換留学生を受入れる予定であり、後期を含めて 50 名の受け入れを目指す。
- ・ 学長のカナダ名誉領事就任に伴い、今後はカナダの大学と国際交流を推進できる連携校を選定し、英語圏の語学留学先を開拓したい。

■ 授業における国際化

- ・ スポーツ経営学科科目「スポーツビジネス視察Ⅲ（欧州）」で、2022 年 9 月に渡航し、欧州 3 か国の視察研修を行った。
- ・ 英語による専門科目の増加を目指し、カリキュラムの国際化を図る。
- ・ オンライン体験留学プログラムの実施経験を踏まえ、興動館科目「広い世界を体験しよう」の新設



“支援の広経大”、手厚いのはキャリア支援だけじゃない

「Be Student-oriented すべての学生のために」（教職員行動指針）のもと、広島経済大学の支援の手厚さは、高い評価を得ています。「やる気さえあれば、あらゆる機会を大学が用意して、背中を押してくれる」とは、卒業を前にした4年生の言葉。「就職の広経大」と評されるキャリア支援だけでなく、多様な支援で学生の成長を支えます。

■ 奨学金制度

- ・学業成績優秀者奨学金の他、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などのさらなる充実を図る。

■ キャリア支援

■ 重点企業「チャレンジ 100」

- ・チャレンジ 100 として選定した重点企業への就職 60 社以上、上場企業への就職率 20 名以上、公務員合格者 30 名以上、企業訪問による情報収集 200 社以上を目標に、学生の志望度の高い企業・団体等への就職支援を行う。

■ 「オーダーメイド」の就職支援

- ・一人ひとりの能力、個性に合わせた「オーダーメイド」の就職支援を行うためにゼミ担当教員、部・サークル顧問等と協力し、キャリアセンター職員が一人ひとりの学生に寄り添い、さらに進路希望登録データを利用した全員面談を行う。
- ・中四国企業への就職率が 70%を超え、地元への就職を希望する学生の要望に対し、特に本学と就職支援に関する協定を締結している愛媛県、島根県、山口県、岡山県との連携強化による U ターン、I ターンの就職支援の強化を図る。
- ・学部・学科の特性に見合う就職先の開拓と学部・学科別の「進路・就職支援プログラム」実施を検討する。

■ キャリア教育の強化

- ・低学年次を対象とするキャリア教育を強化するために、社会人基礎学力を鍛えることを目的とした、社会人キャリア科目の定員充足させるよう改善する。
- ・インターンシップの充実を図るために、科目の見直しに伴う検証と次年度に向けた新たな提案を行う。

■ 女子学生支援の継続と改善

- ・女子学生会「こまち会」のスタッフによる運営のサポートをする。Instagramによる広報活動の強化やイベント参加率を向上させる。
- ・キャリア支援として、履修生の評価が高い「女子学生支援関係科目」を継続する。

■ 学習支援（教育のページ参照）

■ 学生活動支援

- ・興動館プロジェクトの経費支援とコーディネーターの充実
- ・サークル活動における活動費の支援及び外部コーチ招聘等指導体制の充実
- ・学生対応に関する学内連携



■ 財務の現況（2021 年度決算）

（単位：円 10 万円以下切り捨て）

資産の部	
有形固定資産	21,463,000,000
（内 土地）	（4,110,000,000）
特定資産	9,824,000,000
（内 現預金）	（6,165,000,000）
その他の固定資産	10,892,000,000
（内 有価証券）	（8,911,000,000）
流動資産	3,215,000,000
（内 現金預金）	（3,157,000,000）
資産の部合計	45,396,000,000
負債の部	
固定負債	867,000,000
流動負債	573,000,000
負債の部合計	1,440,000,000

■ 予算編成方針

予算編成は、原則昨年度当初予算をもとに作成する。ただし収入の部における学生生徒等納付金については、在学生数＋入学予定者数を予測した数値をもとに算定する。支出の部については、昨年比ゼロシーリングを原則とするが、人件費等やむを得ないものについては見込み額を計上する。施設設備費については、事業計画に基づいて金額を計上する。この方針の下で、教育活動収支、事業活動収支のバランスを目指す。教育上やむを得ぬ支出は、教育効果を優先する。

以上の編成方針のもと作成した 2023 年度予算は、教育活動収支差額が支出超過となる予算を組まざるを得なかった（ただし減価償却額を減じた資金ベースでは収入超過となるため資金がショートすることはない）。この主たる原因は戦略的定員割れ作戦による学生数の定員未充足にあるが、新入生の質を勘案すればやむを得ないと思う。

【4 月】

入学式
新入生各種ガイダンス等
前期授業開始
興動館プロジェクト認定式

【5 月】

高校教員対象大学説明会
学生大会

【6 月】

定期演奏会
オープンキャンパス
春季保護者会役員会

【7 月】

オープンキャンパス
研究倫理及びコンプライアンス研修会
保護者対象就職説明会
総合型選抜入試一次面談

【8 月】

前期学内定期試験
夏期休暇
前期追試験
夏期集中講義
オープンキャンパス
前期再試験

【9 月】

大学院Ⅰ期入試
教職員セミナー
後期授業開始
総合型選抜入試二次面談
前期学位記授与式

【10 月】

3 年生対象就職ガイダンス
大学祭
全学ゼミ対抗スポーツ大会
同窓会総会

【11 月】

祇園・興動祭
学生大会
秋季保護者会役員会
業界・企業研究対策講座
学校推薦型選抜入試

【12 月】

U ターン就活講座
卒業生による就活セミナー
興動館プロジェクト活動報告会
冬期休暇

【1 月】

新年互礼会
創立記念日
後期学内定期試験
新年度興動館プロジェクト立ち上げ説明会

【2 月】

後期追試験
一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅰ期入試
学校推薦型選抜入試
学内合同企業セミナー
後期再試験
大学院Ⅱ期入試
留学生入試Ⅰ期

【3 月】

一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅱ期入試
学校推薦型選抜入試
留学生Ⅱ期入試
学位記授与式
学生定期健康診断